



Title	WIEN工房100周年記念展に参加して(2003/12)
Author(s)	鈴木, 佳子
Citation	デザイン理論. 2005, 46, p. 180-181
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/52957">https://doi.org/10.18910/52957</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## WIEN 工房100周年記念展に参加して (2003/12)

鈴木佳子/京都女子大学

ウィーン工房はウィーンナー・セセッションが1897年スタートしたのに対して、その同じ考えの基に物作り集団として、1903年に建築家J・ホフマン、工芸家K・モーザー、出資者F・ヴェレンドルファーと共にWWとして誕生した。それ以前のイギリスのアーツ・アンド・クラフツ運動や、フランスのアール・ヌーボー、イタリアのリバティ・スタイル、ドイツのユージュント・スティールなど新しい芸術を目指す大きな流れに連動して、それは生まれた。

その丁度100年に当たる2003年ウィーンの各所でウィーン工房ゆかりの展示と現代への流れを見つめる展覧会(100Jahre Wiener Werkstätte 100th anniversary)が催された。

まずウィーン工房の製品を作ったことあり、現在も新しい製品を作り続けているメーカーの出品として、以下の10箇所で2003年9月~2004年1月まで展示された。

1. LOOSHAUS
2. AUGARTEN
3. WOKA
4. ÖSTERR. WERKSTÄTTEN
5. LOBMEYR
6. THONET VIENNA
7. BACKHAUSEN
8. WITTMANN
9. SENFT
10. F. O. SCH MIDT

またウィーン市立歴史博物館・Alvertina・ギャラリー・Kovacek & zetter など至る所でウィーン工房の緑色のポスターや旗が掲示されていた。一番最後は、オーストリア装飾

美術館(MAK)で、“DER PREIS DER SHÖNHEIT” 2003年12月10日~2004年3月7日まで展示があった。会場の構成はWWに因んで(二重Wの平面)で変わってはいたが、少し観にくかった。

19世紀末の展示から、1903年~1932年ウィーン工房の終演までを時間軸で並べてあって、時代の流れは掴みやすかった。この会場のモノはウィーン工房の制作番号が付けられているものでMAKが多く所蔵している作品である。

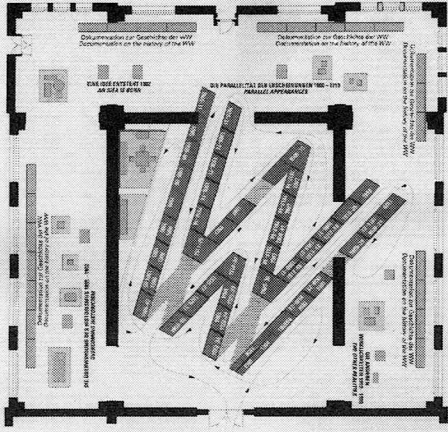
他の会場でメーカーが展示しているものはウィーン工房の作品とメーカーの作品が同時に展示されていて(例えばロブマイヤーでは、ホフマンの作品・ホフマンの企画したもの・他のデザイナーのもの・現在のものとゆう風にウィーン工房だけでなく現代に繋がっていることを強調している。

MAKの会場では写真の撮影は出来なかったが、出来たところもあったのでそれらを提示しながらウィーンの2003年12月の状況を報告したい。

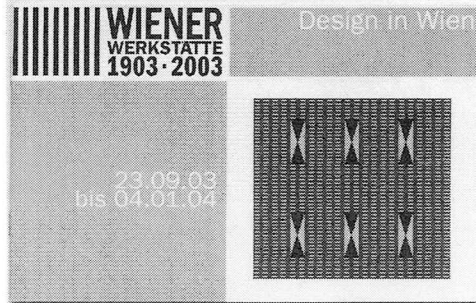


ヴェレンドルファー夫妻

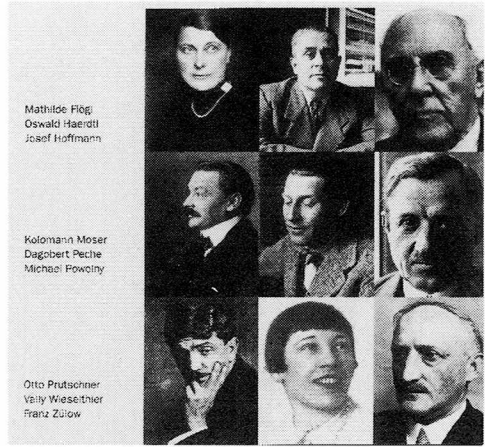
ORIENTIERUNGSPLAN / FLOOR PLAN



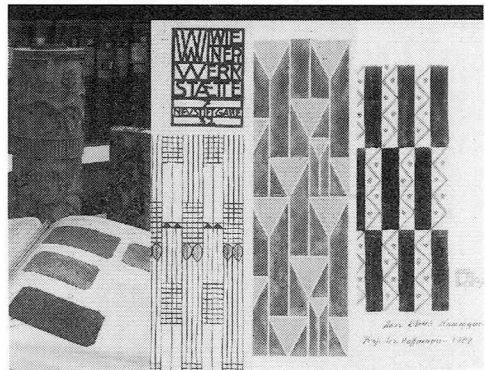
MAKの展示場



10カ所での展示カタログ



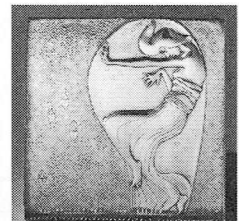
ローズ館での展示



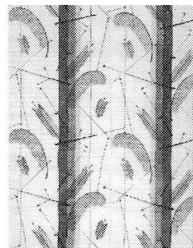
バックハウゼンでの展示



J. ホフマン



K. モザー



F. リックス, ウエノ



D. ベッヘ